

## 地域おこしを行う神社仏閣に若者が少ないのはなぜか

濱田紗矢乃

指導教員 那須清吾

### 研究背景

少子高齢化が進む中、地域おこしは活発だが、神社仏閣の運営には若者が少なく、イベント維持が課題となっている。参加者はいても担い手が不足しており、運営情報の広報も十分ではない。そこで本研究は、「地域おこしを行う神社仏閣に若者が少ない理由」を広報の観点から研究する。

### 研究目的

本研究は、神社仏閣の地域おこしに若者が少ない要因を明らかにし、若者参加を促す手がかりを示すことで、地域文化の維持・発展に貢献することを目的とする。

### 研究方法

本研究では、先行研究を基に神社仏閣の情報発信モデルを作成し、若者 24 人へのインタビューと高知県内事例の分析を行った。さらに理論を立て、20～30 代 600 人へのアンケートと QCA 分析を通して、若者が地域おこし運営に参加するために必要な広報内容と方法を明らかにした。

### 分析結果

事例分析を認知言語学・受容プロセス・エンコードの 3 視点で行った結果、各神社仏閣の広報は若者に必要な情報が不足していることが分かった。考察から、報酬、活動内容、目的、雰囲気、歴史、写真などの情報を SNS で発信する重要性を整理し、アンケートで検証した。その結果、最も重要なのは当日や事前の具体的な活動内容であり、加えて運営やイベントの雰囲気が伝わる写真付き SNS 広報が有効であることが明らかになった。

### 考察・結論

考察の結果、広報に認知言語学的な工夫がある神社仏閣ほど若者参加を促せる一方、工夫のない場合は参加率が低いと示唆された。また神社仏閣側は若者が求める情報を十分理解せず発信している傾向があることが分かった。アンケート分析からは、活動内容や現場の雰囲気が分かり、SNS で発信されていることが参加を後押しすることが明らかになった。結論として、若者の受容タイプに合った情報と認知言語学を活用した広報が重要であり、最低条件として「具体的な活動内容」と「運営の雰囲気」を写真付きで SNS 発信することが、若者参加を高める鍵である。